



日本のお笑いに触れて

史 雪 琴

SHI XUE QIN

人と初めて会った時、明るくてよく笑う人の方がいい印象を与え、誰とでもすぐ仲良くなれるし、人にも可愛がってもらえると思います。

私の職場の人はみんなとても明るくておもしろく、すぐに仲良くなることができました。それでも私は「もっとみんなと仲良くなりたい。」「もっと日本語を話せるようになりたい。」と思いました。その為にはただ日常生活、仕事で使う専門用語などを勉強する以外に、何が必要なのだろうと考えました。一生懸命勉強すること、一生懸命仕事することも大事だけれど、国によって言葉だけでなく、文化も違います。そういった文化を理解することも大事で、その中でも特に私は人とコミュニケーションを取りたいという思いから、テレビでよく見る「日本の笑い」に興味を持ちました。中国には喜劇というものがありますが、日本にも「喜劇」や「落語」「漫才」「コント」等、いろいろな種類の「笑い」があることを知りました。でも、説明してもらっても違いが分かりにくく、理解できませんでした。その時、幸運にも会社の行事で「吉本喜劇」が来るということを知り、私はもちろん見に行くことに決めました。

当日、仕事が終わってから、会社の先輩と一緒に近くの文化センターに行きました。喜劇を実際に見れると思うと、すごくワクワクし、また楽しめるのかという不安も少しありました。

そして、いよいよ吉本新喜劇が始まりました。喜劇はストーリーがあり、その日は二人兄妹についての話でした。個性豊かな芸人達がそれぞれの役を大げさな動作や誇張した話し方などで演じていて、私にも内容が理解でき、何度も吹き出してしまいました。でも、やはりところどころ聞き取ることができない場面もありました。周りの人が笑っているのに自分にはそれが理解できず、一緒に行った先輩が舞台の合間に意味を教えてくださいました。私は日本語を全て聞き取れたわけではないけれど、テレビでしか見たことのない人達を実際に見ることができ、また、中国でも、中々見ることもないこういった舞台を見ただけでもいい経験になったと思います。

日本に来てから、みんなと交流し、日本の文化「笑い」についても少し理解でき、楽しく毎日を送ることができました。そして、あと一年程で中国に帰ります。一年は私が思う以上にあっという間に過ぎてしまうのだろうと思います。限られた少しの時間も無駄にせず、これからも一生懸命日本語を勉強し、積極的に日本の文化に触れ、帰国する頃に、みんなから「研修生としてあなた達を受け入れて良かった」と言ってもらえるよう、勉強も仕事も頑張りたいです。そして、私から「日本に来て良かった」日本で出会った人達と一緒に働いた人達に「ありがとう」と笑顔で伝えて帰りたいです。

・区 分 技能実習生
・国 籍 中国
・職 種 電子機器組立て
・受入れ企業 姫菱テクニカ株式会社
・受入れ団体 姫路電装品事業協同組合